

第5回大崎地区における高校の在り方検討会議 会議録

日 時 平成31年3月22日（金）午後3時から午後5時まで
場 所 宮城県大崎合同庁舎501・502会議室
出席者 別紙「出席者名簿」のとおり

1 開 会

【司会】

それでは定刻となりましたので、「第5回大崎地区における高校の在り方検討会議」を始めさせていただきます。本日は大変お忙しいところ、御出席を賜りありがとうございます。

初めに、本日は宮城県教育委員会教育長 高橋仁が同席しておりますので御挨拶を申し上げます。

2 挨拶

【高橋教育長】

改めまして、皆様こんにちは。この大崎地区における高校の在り方検討会議に御出席をいただき、様々な御議論をいただいてまいりました。まずそのことについて委員の皆様から心から御礼を申し上げます。

この大崎地区については、生徒数の減少がずっと続いております。私が高校教育課長をしていた、今から約10年前でございますが、その時にもこの地区においていわゆる再編基準に合致して廃校になるのではないかという懸念、心配のあるところもございました。そういった中で地域の皆様の御協力によってその危機を回避できたという経験もあります。つまり今から10年前の段階でもこの地域における高校の在り方については、地域の皆様から色々なお話を伺って、学校を残すために御理解と御協力をいただいてきた経緯があります。10年が経過して、現在、ますます子供の数が減ってきている中で、こういったことを高校としてどのように受け止めて、更に未来の子供たちにとってどういった高校で在るべきか、そのことをこの検討会議の中で御議論をいただいてまいりました。個別の高校をどうするかということ以上に、地区として県立高校がどう在るべきかという議論を深めてきたという理解をしております。それと同時進行で県教育委員会では、先月に第3期県立高校将来構想を策定したところでございます。生徒数が減っていく中でより魅力のある県立高校をつくるにはどうしたら良いかということで大きな方向性を今後10年で示したものであります。将来構想でも触れているところではありますが、中学校卒業生の減少に伴う対応だけではなくて、地域社会全体がグローバル化をしていく中で、それに対応できる

人づくり、高校教育環境をどのようにするか、そういったことについても記載しております。大きく変化する社会の中でも子供たち一人一人が、高い志を持って自己実現を図っていく、そういったことが出来るような教育環境を整備していく、これが我々の責務であると考えております。

これまでの検討会議の中でそれぞれの学校を残していきたいというお気持ちを越えて、そういった気持ちを持ちつつも、未来の子供たちの高校教育環境についてどういったものが良いか、幅広く御意見をいただきたいと考えているところでございます。本日も生徒から選ばれる魅力ある高校づくりに向けて貴重な意見を賜りますよう申し上げたいと思います。前回の会議の中で教育委員会から一つの案を示させていただきました。この案がそのまま実現するとすれば、7年から8年後のことになります。そういうことを踏まえたと、今、ここで行われている議論は来年再来年にどうするかということではなくて、その実現が7年後か8年後になるという前提で色々な御議論をいただければと思います。どうかよろしくお願い申し上げまして御挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いたします。

【司会】

続きまして、出席者については出席者名簿のとおりですが、涌谷町教育委員会教育長の佐々木一彦様、美里町企画財政課長の佐野仁様、美里町教育委員会教育長の犬友義孝様、遠田郡PTA連合会長の関原英明様は所用のため、本日は御欠席です。なお、大崎市教育委員会教育長の熊野充利様は本日公務のため、出席できないとの連絡がありましたので、御欠席となります。

ここからの会議の進行は当検討会議の開催要項に基づき、座長の高橋教育次長にお願いします。

【高橋教育次長】

今日、第5回目ということで、会議を進めていきたいと思います。これまで皆様から様々な観点から御意見をいただきました。第4回、前回では具体的な案をお示したわけでございます。もちろん前の3回の会議においてそれぞれの委員から様々な御意見をいただいた中でこの地域の高校教育の方向性について議論した上で具体的な案をお示したと考えております。今回はこれまでの会議の振り返りと大崎地区東部ブロックにおける高校の将来像において具体的に県の考え方を整理した資料をお示しますので、これについて忌憚のない御意見をいただいた上で共通認識をしていきたいと考えております。それでは事務局から説明をさせていただきますと思います。

4 議事

大崎地区（東部ブロック）における高校の将来像について

【事務局（西城教育企画室教育改革班長）】

事務局より資料1，資料2を用いまして説明をさせていただきます。

資料1はこれまでの会議における検討内容の記録となります。表紙をご覧ください。こちらの資料は、いずれ当会議の記録として残すことを想定しておりますので、タイトル「大崎地区（東部ブロック）における高校の将来像」としております。また、会議名として「大崎地区における高校の在り方検討会議」と記しております。表紙をめくっていただきまして、本文になりますが、全体として大きく三つに分けた構成としております。一つ目は大崎地区全体の概要、二つ目は大崎地区（東部ブロック）について、最後に三つ目は当検討会議における検討の概要、という内容となっております。

1ページ目。まず、大崎地区の概要についてですが、(1)「概況」として、大崎地区の地勢や自然環境、人口や産業について記載しております。(2)「中学校卒業生数の見込み」として、全県及び大崎地区の状況に記載しているところです。資料2ページになりますが、(3)「高校の設置状況」として、表1，2，それから表3につきましては定時制高校の状況を記載しているところです。3ページでは、(4)「高校再編等の状況」として、平成22年度以降の県内の公立高校再編の状況について表4として記載しております。

次に、項目2の「大崎地区（東部ブロック）について」ですが、今回の検討対象である東部ブロックの状況について、まず(1)「大崎地区（東部ブロック）における検討」では、大崎地区東部ブロックにおける検討の趣旨について記載するとともに、4ページの(2)では「大崎地区（東部ブロック）の学校の状況」を記載しております。表6，5校について御覧いただきたいと思えます。それからページをめくっていただきまして、表7，8に学校の状況を記載しているところです。

5ページの真ん中のところになりますが、項目3「大崎地区における高校の在り方検討会議における検討」ということで、(1)として「開催趣旨」について記載しております。また(2)「開催経過」として、これまで4回の会議の内容をまとめております。順番に見ていきたいと思えます。

昨年9月12日に開催いたしました第1回目の会議では、第3期県立高校将来構想における学校配置の考え方ですとか、大崎地区の今後10年間の高校配置の方向性ととも全日制高校の状況について説明いたしました。会議出席者の皆様からは、学校の現状や取組、地域との関係などについて、6ページの表9にまとめてありますようなお話をいただいたところです。学校それぞれの充実した取組とともに、地域貢献活動や地域住民との協働学習や町の支援などについてのお話をいただきました。さらに、望まれる学校像といたしましては7ページの表10にまとめておりますが、職業系の学びの機会を確保すべき、地域との関わりを持った高校を目指すべきといった御意見のほか、看護師や介護士など高齢社会で不足する人材の育成や、発達障害を持つ生徒や不登校の生徒を支援する環境整備が必

要である、などの御意見をいただきました。また、小規模な学校に入学してくる生徒の実態を考慮して検討を進めるべきとの御意見もいただいたところです。

次に、7ページですが、11月2日に開催した第2回目の会議では、「望まれる学校像」を議題としておりました。7ページ下の図にありますとおり、第1回目の会議において皆様からいただいた御意見を基に、現在の学習内容や取組を継続するとともに、再編により新たなコンセプトを有する高校を設置することを提示いたしました。8ページになりますが、「新たなコンセプトを有する高校」として、タイプ1「複数の職業系専門学科を有する高校」とタイプ2「学び直しや社会的自立に必要な能力の育成に主眼を置いた高校」を提示いたしました。これらに対しまして、皆様からは、8ページの2段落目のところになりますが、既存の専門学科を継続すること、高校における通級指導などの体制整備を進めるべきとの御意見をいただいたほか、特にタイプ2として提示した高校に関して、学び直しや社会的自立に必要な能力の育成を主眼とした高校を設置するのではなく、それを一つの視点として、いずれの学校でも取り組む体制が必要であるとの御意見もいただいたところです。また、学校配置や学科配置については、配置のバランスを考慮するとともに、地域の要請や子供たちの視点が必要だとの御意見もありました。その他、教育環境の充実のため、再編はやむを得ないという御意見もいただいたところです。

次に、12月26日に開催した第3回目の会議では、9ページ上の図になりますが、「大崎地区（東部ブロック）における高校の将来像」として、これまでの会議でいただいた意見をまとめまして、「東部ブロックに所在する学校全体で学びの選択幅を確保」し、福祉に関する学びや新たな学びを加えた形で職業人材を育成していくことを提示いたしました。また、その具現化のための手法として、既存校の学科改編と再編統合による職業教育拠点校の設置を示したところです。さらに、「新たな職業教育拠点校」の方向性として、9ページ下の図になりますが、「職業系の学びの充実」と「基礎学力の定着」を視点として掲げ、「明確な勤労観・職業観」と「課題解決能力や将来の職業人として活躍できる力」を涵養することにより、「多様な学びの場の提供による社会的・職業的自立に必要な能力を持った生徒を育成」することをコンセプトとすることを提示いたしました。なお、職業教育拠点校の設置に関しまして、既存の校舎等の活用にとらわれない柔軟な発想による検討を行っていくことを示しております。提示いたしました将来像に対しまして、小規模校の存在意義や再編の必要性に関する意見がありましたが、大きな方向性としては、東部ブロックにおける再編はやむを得ないとの御意見であったこと、新たな職業教育拠点校設置の方向性については、概ね合意が図られたこと、また、今後の検討に当たっては、学ぶ側、生徒側の発想が求められることや再編に向けたスケジュールを念頭においた検討などに留意すべきとの御意見をいただきました。

次に、10ページになりますが、1月25日に開催した第4回会議では、「大崎地区（東部ブロック）における高校の将来像」として、具体的な再編案を含めて提示いたしました。これまでの御意見を踏まえて2段落目になりますが、①生徒の多様な興味・関心や進路希

望に対応する学びの場の提供，②これまで培ってきた学びの継続，③社会の変化や生徒の実態に対応した新たな学びの創出，④社会的・職業的自立に必要な能力を持った生徒の育成を柱として，東部ブロックに所在する学校全体で学びの選択肢を確保し，職業人材を育成することをコンセプトとしております。

将来的な高校の体制といたしまして，既存校の再編及び学科改編で対応することとし，松山高校，鹿島台商業高校，南郷高校の3校を再編して，これらの高校に設置されている専門学科及び「学びの取組」を踏襲しながら，併せて社会的ニーズに基づいた新たな学科の設置による魅力ある職業教育拠点校の新設を提案いたしました。また，涌谷高校につきましては，現状の普通科を維持しながら，福祉に関する学びの在り方について別途検討を進めること，小牛田農林高校につきましては，現状の農業技術科，総合学科を維持することとしております。これらの将来像に対しまして，11ページになりますが，3校の再編はやむなしという意見が多くありましたが，今後の中学校卒業生数の減少を考えれば東部ブロックを2校体制とすべきとの御意見もありました。また，学校の設置場所といたしまして，他地区から通学する生徒の利便性も考慮した位置に新設すべきという意見もいただきました。さらに，新設校に設置する学科については，既存校での家政や商業，農業の学びを基にしながら，地域性や時代の潮流を捉えた学科，例えば醸造科などの設置によって特色ある学校づくりをすべきとの御意見もいただいたところです。

資料では，以下，本日の会議の記録のスペースを残しております。本会議の記録として，こちらに本日の会議記録を掲載することを予定しております。

資料1の説明は以上です。次に，資料2を御覧ください。こちらはただいま振り返りました第4回会議において，家政，商業，農業を基にして新しい内容の教育をやるべきとの御意見や，特に地域のニーズに対応した学科の設置についての御意見がありました。これらを反映させて，図の左下の魅力ある職業教育の拠点校の方向性ですが，方向性の一つ目，「既存校の専門学科や『学びの取組』を踏襲」という言い方をしておりましたが，本来の意図としては，そっくりそのまま引き継ぐということではなく，それらの学びを基に検討していくという趣旨を明らかにするため，「専門学科や『学びの取組』を基本とする」という表記に変えております。また，方向性の二つ目ですが，前回は，「社会のニーズに基づいた新たな学科の設置の検討」としておりましたが，地域のニーズ，地域の産業等に対応した学科の検討という趣旨から，「社会や地域のニーズに基づいた新たな学科の設置を検討する」としているところです。

議事についての，説明は以上となります。

【高橋教育次長】

今，資料1，資料2について御説明いたしました。今までの議論を踏まえまして，事務局で修正する所は修正し，第4回での具体的な案に関してそれぞれ委員の方々から御意見をいただいた件については最後の方のページにて整理をさせていただきました。本日は前

回の宿題というものも特にございませんでしたので、今まで議論してきた高校の在り方検討会議としてのレポートをこのような形でまとめたということ、どの場面、どの分野でも構いませんので、委員の方々からお気づきの点、御質問、御意見をいただきたいと考えております。奥山委員、どうぞ。

【松山高等学校教育後援会 奥山会長】

今お話があった内容とは少し違うのですけれども、この会議で結論が出るという、方向性がまとまったとして、その後どのように進めていくのかということが気になっているのですけれども、その進め方によっては今回私がこの場で話す内容が変わってきますので、まず、それを聞かせていただきたいと思います。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

教育企画室長の佐々木でございます。まず、今日の会議を含めましてこれまでいただきました御意見をこの資料1を基にした内容においてまとめさせていただくことを考えております。そしてこの報告書のような資料を基にしまして、我々の方で今後の進め方について検討させていただいた上で、今年の2月に策定しました第3期県立高校将来構想のアクションプランの中に位置付けまして具体的に進めていきたいと考えております。再編に関する部分の書きぶりといったしましては、教育長の話の中にもありましたが、新しい場所に新しい校舎を作るとなれば、当然一定のまとまった時間が必要になりますので、その間の進め方も含めて、そのアクションプランである実施計画に落とし込んでいくことを考えています。

【松山高等学校教育後援会 奥山会長】

一つお願いがあるのですが、先ほどからこれまでの経過、それから教育長さんのお話にも何度も出てきたのですが、一種の理解というか、そういう事でお話があったのだろうと思うのですけれども、地域の意見を聴く場というものを設けてはいただけないでしょうか。私たちはここで発言しておりますが、地域を代表する訳でも何でもありません、地域の方が新聞報道やテレビ報道を見て、びっくりしているのですよ。初めて知った時にはもうここまで話が進んでいるのかというような意見もいただきました。それからいつの間にか鹿島台商業とか南郷とか具体的な名前まで挙がって次の学校の場所も決まっているのかと。これは多分誤解によるものだと思いますけれども、そういう噂が広まっていつの間にかです。私が出ていたということを聞きつけた人から、或いは後援会の役員会もありますのでそういう時に私が説明を求められて、きちんと示さなければ駄目ではないかという話を承って、先日、住民の意見を聴く会の様なものを設けさせていただきました。一部の新聞等で報道されましたので御存知の方もいるかと思いますが、少し話が長くなりますが聞いていただきたいと思います。

松山高校に限ってお話しますけれども、松山町という町があって、それ以前の時代もありましたけれども、その地区の人々の強い希望、熱烈な思いであの学校は作られました。それを県立の松山高校として独立するまで、或いは独立してからも長い時間とそれから多くの人々の物心両面の支えがあって独立した学校です。その後、なかなかやっかいな生徒も居て、学校も指導に大変苦しんでいた時代もありますし、町の人たちの輦蹙を買ったこともあります。それでも地域の人たちはあの学校を見捨てなかったのです。ずっと支え続けてきてくれて、今やっと不登校とかそういう経歴を背負った生徒たちが大学進学を果たすまで良くなってきています。それは教員の指導もありますが、町の方々が信じてずっと支えて大切に学校を育ててきたからです。県立の学校という名前は付いていますが、あれは町の学校でもあります。松山の地域の人々の学校なのです。松山町という町があれば、松山町の教育長或いは町長が座ってですね、こういう意見が出たら真っ先に「反対」と言うはずだと思います。それだけ学校を今も大切にしているのです。初めて聞いた報道で学校が無くなる、それがどこか他の地域の一つになってまとめられると聞いてびっくりしている。びっくりしているよりも怒っているのですよ。私たちの意見は何処へ行くのかという思いがあるのですね。ですからこうして学校関係者や教育関係者が集められてですね、意見を述べ合う会議も良いですけども、地域住民の声をもう少し固めていただきたいと思っております。何故これほど大切にしてきたかという、松山の町づくり、今は地域づくりと言った方が良いでしょうけれど、その重要な構成の要素として高校が考えられていると。町の中で高校の生徒が若い層を形成しているわけです。ですから町の行事等に参加しております。それから色々な施設にボランティアとして出て行っております。町の人たちが支えていることに応えるような形で学校も町を支えているのですよ。高校が町づくりの重要な柱なのです。それが無くなってしまったら、あの松山地区は確実に衰退しますよ。地域振興という面からも高校が果たす役割をきちんと考えていかななくてはならない。その為には、あまり地域に、こういうことを言っては失礼なのですが、地域に日常的に仕事があるわけではない、関わっているわけではないです。そういう人間が集まって話をしても駄目なのです。ですから各地区で、鹿島台と南郷と松山で、まず聴いていただきたい。それから県の思うところを地域の方々にお話していただきたい。それで納得してもらってほしい。私は反対する為にここに座っているのではなくて、皆が納得して進めようとして。ですから、一つの学校にまとめられるのならそれも仕方がない。私は松山高校に残ってほしいと思っておりますが、色々な学校を見ているが、あのような学校は本当に珍しいです。地域によって支えられている学校なのです。極論とすれば古川黎明がなくなっても、どこかの高校が代わってやってくれます。ところが松山高校がなくなったら松山高校のやっていたことはどの学校もやってくれないですよ。なくなってから、あ、失敗したなど、取り返しの付かないことをしてしまったと、いうことではなくて、きちんとその辺のところを、地域の方々と意見を交わしてやっていただきたいと思っております。この前の会議の中で、松山高校はこれまで地域の人たちに育てられてきた幸せな学校だと言っ

ておりますが、私は今、その幸せな学校が無くなるという時に、意見を言う場所も与えられないという最大の不幸に直面していると思っています。ですから、幸せな学校に対して最後までこういう状況を学校としてどういう風に乗切っていくかという意見を地域に述べさせる機会を設けるということが必要だろうと思います。是非、今回で終わって結論はできたということではなく、地域の方々との意見の交換をお願いしたいと思っています。

【南郷高等学校同窓会 佐々木会長】

先ほど説明された資料の中で質問したいのですが、前回出されたところでですね、松山、鹿島台、南郷を再編統合して併せた新設校の中でその方向性の一番上に「既存校に設置されている専門学科及び学びの取組を基本とする」ということが今回の説明でした。前回は、「既存校に設置されている専門学科及び学びの取組を踏襲する」でした。「踏襲」から「基本」に変わった説明が、先ほどちらっと言ったような感じがするのですが、私は今から8年後ぐらいに統合される学校でありますから、その時代時代に変化することはやむを得ないことだろうと思いますが、せめて現段階では松山の家政科、鹿島台の商業科、南郷の産業技術科、これらを「踏襲」するというので前回了解したと思うのですが。是非それを根底においてほしいと思います。「基本とする」というとどこかに行くかも分からない様な表現を今回提案されたのではないかと感じてしまいます。これは私たちの意図するところとは違うのではないかと。

それから今松山高校の後援会会長からお話があったようですが、やはり地域の声を聴くということも必要だと思います。これでやってしまうということは、このようなことを言っただけでは失礼ですが南郷高校は県に作ってもらった学校ではありません。地域の野田地主さんや地元の名において作った学校です。これを県の都合で、人口減のことで一方的に無くすというのは違うのではないかと感じます。やはり地域の3校合わせたところのこういう構想でという県からのしっかりとした説明がなければ、今まで90年続いてきた学校であり、1万人を越す卒業生を出してきた学校でありますので、是非そういうことを考えてほしいと思います。まず、「踏襲」を「基本」と表現したところをもう少し分かりやすく説明していただきたいと思っています。

【高橋教育次長】

では、質問が二点ございました。それと奥山委員から地域の意見を聴くという提案がありました。併せて事務局からお願いします。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

まず一つ、それぞれの意見ということですが、この会議の場でもそうですが、様々な意見があるということは承知しております。この会議におきまして皆様からの御意見を踏まえて今後具体的に検討していくわけですが、その検討の状況或いは実際に動き

出す際の状況というものを丁寧に説明しながら進めていくという考え方でおります。また、佐々木委員からお話のありました文言の件ですけれども、前回の会議の中でお話のありました家政、商業、産業技術、その学びを基にしながら新設する学科との連携の部分も含めて、御意見を頂戴したものと捉えた上で表現をこのように直したところでございます。

【高橋教育次長】

「学びの取組を基本とする」という表現の仕方は、我々としては前回「踏襲する」という表現で今までのものをできるだけ引き継いで行きたいということを説明したと思うのですが、この間の会議の中での意見、4回目の議論の中ではどちらかという時代に、実際に新築となれば7年8年かかるわけですから、その時代の趨勢も含めて、考えていくというような意見もかなり出たように思っておりましたので、事務局の今の答えになったのだと思います。

【南郷高等学校同窓会 佐々木会長】

根底は、現段階では8年後は時代が変わっている、状況が変わってくるのだと思うのですが、三つの学校が統合するという現段階では、この三つの学科を踏襲すると考えてよろしいですね。

【高橋教育次長】

今の考え方としては先ほど委員がおっしゃった、鹿島台商業の商業科、松山高校の家政科、南郷の産業技術科ということですよ、基本ということは。

【高橋教育長】

考え方としては、三つの学校でやってきた教育内容をしっかり踏まえて対応していきたいという思いで書いているつもりです。ただ学科名を今までと同じ学科名でやるのかということになれば、これは教育内容をしっかりと踏まえて、この地域の特性を踏まえた形で今後教育を展開する場合には学科名として違う名前の方が良いのではないかということは当然在りうるわけですので、そこは我々の方にもう少し時間をいただいて検討させて欲しいということで今回、「基本とする」という表現に改めたところです。「踏襲」という言葉を使ってしまうと、学科名もそのままなどというような限定が付きかねない、誤解を与えかねないということで改めさせていただいた、そういうことで御理解をいただければと思います。

それから地域の皆様の御意見をお聞きしながらという御意見を頂戴しました。我々はそれぞれ松山高校、鹿島台商業高校、南郷高校の地域の皆さんの地元の学校を残したいという思いは理解しているつもりです。それで独自に学校を残していこうということでこれまで10年以上それぞれの学校で努力されてきたということも分かっておりますし、我々も

努力してきたつもりです。それでも実際に生徒が入学する数が減っているというそういう現実があるわけで、ここにいらっしゃる皆様もそれぞれ地域の皆様ですので、そういった中で今後どうするのかということを検討会議の中で議論をいただいていたと考えております。今回の議論の中で出てきた一定の方向性を受けて、今後は県の責任でお示ししなくてはなりませんので、今回様々な議論を踏まえて、我々としてこういった方向でやって行きたいということについて地域で改めて説明させていただき、そういった機会を今後積極的にもっていきたいと思っております。そういったことは先ほど室長からお話したところでもあります。最初から県教育委員会は一方的に話を進めようとしているということではなくて、まずはそれぞれの学校を残したいという気持ちを地域の皆様と我々も同じようにもってこれまでも努力してきたということは是非御理解をいただきたいと思っております。

【南郷高等学校同窓会 佐々木会長】

教育長のおっしゃることはよく分かりました。是非地域に説明する機会を県教委として設けていただきたいと思っております。私も今のところ南郷高校の産業技術科が将来的にどのような名称に変わっても、この大崎地区というのは前にも申し上げましたが、世界農業遺産の地区でございます。農業後継者を小牛田農林、南郷高校で代々育ててきたわけでございます。農業は大事な産業でこれからも日本の経済を支えていく重大な役割を担っているわけでありますので、それらのものを新たな学校で活かせることを是非お考えいただきたいと思っております。

【高橋教育次長】

ありがとうございます。佐々木委員の御意見は第5回会議というところで整理させていただきたいと思っております。他に御意見等ありますでしょうか。奥山委員、どうぞ。

【松山高等学校教育後援会 奥山会長】

確認ですが、地域の方々に会うというのは県から説明する為に会うのではなくて、地域の声を聴いてほしいということをお願いをしたのです。ですから全部決まりました、このようなことをやりますからという説明、そしてその為に協力してくださいという様なことでは地域の方々は納得しないと思っております。始めにここで決まったら決まったということではよいのですが、この案を持って、こういう話し合いになっています、如何ですかということで、意見を聴くということは出来ないのですか。最初にボタンを掛け違えてしまうと大変なことになると思っておりますよ。民主主義の時代に、民の声を聴かないでどんどん進めたって、どこかの話みたいなことになってしまいますので、ボタンの掛け違いを起こさないように、最初から順を踏んできちんと地域の人たちに納得してもらって進めていってほしいと。反対なんてしないですから。ここにいる委員を納得させたようにお話をして、そして新しい学校に希望を持たせる、そのようなお話をさせていただきたいと思っております。何

も情報が無くて新聞に書かれた報道でもって皆さん疑心暗鬼になっているのですよ。どこにも、これまで地域の方々が高校教育に貢献してくれることに感謝していることも一言も載っていませんし、そういう気持ちを持って話を進めていっても、報道にはそんなこと出てきません。ですからどんどん県のペースで進められている、そういう風に思っているのです。私はこの前地域の方々と会って話をしてきたので、その場とこの会議との差に驚いています。ですから直接会ってください。意見を聴いて下さいというのはその場に居た人間でないと分からないと思います。是非お願いします。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

先ほど御説明しましたことの繰り返しになるかと思いますが、意見は様々あったと思いますが、こういった状況を踏まえてこのままではいけないという状況にあることは間違いないと思いますので、具体的に今後進めていく進捗状況などについては、丁寧に説明させていただきたいと考えているところです。

【高橋教育次長】

徳能委員どうぞ。

【松山高等学校 徳能校長】

松山高校の徳能でございます。私も県立高校の校長の立場で今言えること言えないこともある中でこの席に着いている訳ですけれども、この案に対しておそらく今日が意見を述べる最後の機会であると思っているので、この案についてお話をさせていただければと思います。

この三つの学校を「がちゃん」という、そういうやり方はしてほしくない、前回は申し上げたのですが、もう少し未来を見据えた、生徒たちがわくわくするような学校というものを最初から言われていましたので、そういうような案を示していくべきだと思うのですね。これをこのまま世の中に出されたのでは、「ただ、がちゃっただけだね」、「大崎地区の学校をただ減らしただけではないか」と思われてしまうのではないかと。そうではなくて、生徒がわくわくする魅力ある学校を最初から提示するべきだと思うのです。今の三つの専門学科の学びの取組を基本とする、踏襲する、どちらでもよいのですけれどもどちらも駄目だと思うのですね、そんなことでは、やはり地域の人や生徒たちも、納得しないと私は思うのです。なので、この資料がこのまま出て行くことになるのかなと思うと、とても残念な気持ちでいっぱいです。先ほど奥山会長からありましたけれども、松山地域には町づくりの重要な柱がやはり高校なのです、それは私もこの一年間仕事をして感じたことであるし地域の温かさに支えられている学校であるというも思っております。地域に必要な教育とか、それを実現する条件というのは、地域のスモールデータの中にしかないと思うのです。いくら県の状況ですとか、全国的な状況とかいうそういうデータをバ

ックにして議論を進めている、それは違うのではないかと思うのですね。そういうことではなくてスモールデータで是非検証して学校づくりを進めていただきたいと思います。このスモールデータの検証がないから、こうやって松山地域の皆様もとても不安に思っているのだと思います。地域に必要な高校を実現するような方向で是非今後の話を進めていただければと思っております。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

既存高校の学科に関しましては先ほどの佐々木委員との考え方と違う部分もあったかと思えます。いずれ今やっている学びを踏まえつつも、資料にありますとおり、社会や地域のニーズに応じた新たな学科の設置も検討していくこととしておりますので、全く同じ形のものをくっつけるということだけに主眼を置いた形ではない進め方をしていかななくてはならないと考えております。

【高橋教育長】

私からの補足でございますが、改めて話をさせていただきますけれども、松山高校、南郷高校、鹿島台商業高校、それぞれの地域に支えられて生徒を確保し、そして生徒の為に一生懸命、地域と一緒に取り組んでこられたことは十分に承知しておりますし、県の教育委員会としましても、それを実現するために一緒になって努力してきたつもりでございます。そういった状況がままならなくなってきたという現状でありまして、それを今後の為にどうしたらよいかということでこの検討会議をしてきました。4回の議論の中でそれぞれ学校を残したい気持ちはあるけれども再編はやむを得ないという議論だったと思えます。再編するとすればこういう方向性でということで、4回目の会議では新しい学校について示したところです。当然これが最終的な姿ではなくて、将来入ってくる生徒たちがそのイメージを見てわくわくする、是非入学してみたい、そういう学校でなければ作る意味は無いのですから、そこは今後も検討させていただいて、こういった学校でやっていきたいのですけれどもどうですかということ地域にお示しをしていく、そういった段階になっていくと思えます。この三つの高校を存続していくことが難しい状況になっている、どうぞここをこの会議の中で共有させていただきたい、しからばどうするかということで、その提言をいただいて、その提言を踏まえて教育委員会として案をお示しし、それを更に地域に伝えていく、その繰り返しをすることでよりよい学校を作っていきたいという、こういった考え方でありまして、御理解をいただければと思えます。

【高橋教育次長】

それぞれ委員の方がたから御質問等いただいて、我々からの考え方をお伝えしましたけれども、今日は全般にわたってそれぞれ各員でのお考えがあれば是非お聞かせいただきたいと思います、如何でしょうか。奥山委員、どうぞ。

【松山高等学校教育後援会 奥山会長】

資料2の拠点校の方向性のところに、併せて社会や地域のニーズに基づいたうんぬんがありますが、今の教育長さんのお話ですと、教育庁さんの方で案を作ってそれを地域にお示しすると思いますが、逆ではないでしょうか。最初に地域のニーズを聴いてそれを県のほうに持って行って検討して、ではこういうのはどうですかということでお返しをすると、そういうことではないのですか。まずは県のほうで考えるのですか。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

はい、こちらで検討した案について何らかの形でお示するという考え方でおります。

【高橋教育次長】

奥山委員のおっしゃることは分からない訳ではないのですが、今まで議論を重ねてきましたし、我々もこれからも学校側と意見を調整する場も出てくるかと思えますけれども、そこは我々の方できちんと考え方を整理した上でお示しするということが基本だと思えます。どういうのがよいですかということを改めて一からその地域に聴くということではなくて、やはりこちらで様々なデータを含めて整理をした上で新しい学校像というものがこういうものだと考えているという方向性がある方が意見をおっしゃる方も新たな意見が言えるのではないかとも思います。

【松山高等学校教育後援会 奥山会長】

そうするとですね、こんなところ、というものを持っているのですね、県の方では。もうこれまでの4回でもう、地域のニーズは聴かなくても分かる、と。こういうところだろうというものを持っている。私、前もお話したと思うのですが、松山高校でこういう学校を作りたいと言って希望を出したけれども門前払いだったと。そういうことを古くからいる方に聴いたことがあるのですけれども、まず、どのようなことをやってほしいのかということをお聴いてそれはできる、それはできないというのならばまだ分かりますが、これですよということを出されてそれをどういう風に地域の方々が判断するのでしょうか。出されてしまったら、嫌だと言えないでしょう。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

腹案を持っていてそれをこの場で決めるというようなことは現時点では全くなくて、これから検討を進めていくというものです。

【高橋教育次長】

他に委員の方、御発言ありますでしょうか。

【松山高等学校教育後援会 奥山会長】

しつこいようでしょうか、よいでしょうか。

【高橋教育次長】

奥山委員，どうぞ。

【松山高等学校教育後援会 奥山会長】

一つの県の姿勢だと思うのですよ。こういう状況だからそれぞれの学校が単独では立ち行かないよと，申し訳ないけれども一つにまとまってくれよと，ついては何をやりたいんだということではないのかなあと思っているのですよ。

【高橋教育長】

今，奥山委員からあったように，今後どうしても立ち行かないのだと，何とか新しい一つの学校でやっていきたいのだというところまでをここではまず共有していただいたということで，その次のステップをどうするかということについて今の御提案だったと思います。このことについては室長からお話したとおり，具体的な腹案があって出さないでいるということではなくて，そこは具体的に色々な意見は我々も欲しいと思っているところです。先ほど佐々木委員からもありましたがこの地域が世界農業遺産になっていることから是非そういったところも活かすべきだという御提案をいただきました。我々もそういったことは大事なポイントだと思っておりますが，その他にも色々なアイデアがあると思います。それらについては学校を通して更に色々な御意見をお伺いしたいと思っておりますので，そういった中で今奥山委員からあったような部分も，お声を吸収できる部分もあると思います。この検討会議の一番のポイントは，それぞれこの大崎東部地区で五つの学校があって，単独で地域の皆様の御支援をいただきながら頑張ってきたと。そうやってずっと頑張ってきたのですが，子供たちの数が大きく減っていく中でどうしても単独で独立していくことが極めて難しくなったと，そういったことでどうしましょうかということ御相談してきたわけでありまして。そのまとめとして再編も最終的にはやむを得ないと，ただ，再編するとしても，その内容については更に地域から色々御意見を伺うべきだと。まとめとしてはそういったところになるのかなと思っております。この部分は先ほども申し上げましたけれども，県教育委員会として責任を持って魅力ある学校にしなければなりませんので，その為の様々な意見を今後ともいただきたいと思っております。

【高橋教育次長】

他に，どなたがいらっしゃるでしょうか。今回いただいた御意見については最終的なレポートのところに入れさせていただきたいと思っておりますけれども，学びの取組のところは佐々木委員からお話あったところを含めて農業遺産等，この大崎地区が持っている農業に

ついて活かしていくような検討を進めるということは改めて入れていきたいと思います。それ以外に委員の方々から何かありますでしょうか。佐々木委員，どうぞ。

【南郷高等学校同窓会 佐々木会長】

この大崎地区には11の高校があって，その中にちょうど普通高校と専門高校のバランスが五分五分くらいということで，いずれにしてもそのバランスを考えていただけたのは，非常にありがたいと思っております。私も職業高校の経験から言うと，もし5学級と考えている場合，職業系の学科の場合一つの学科が2クラスないとなかなか難しい。ですから，最低でも1学年6クラス規模の学校を作らないとバランス上うまくないのではないかと。この1学年6クラスの学校でもあと8年経過した場合には難しくなっていると思います。ですから前の会議で極端な話，松山，鹿島台商業，南郷に涌谷高校の福祉学科を吸収して，もう少し学校規模を大きくした方があと8年先にまた，出来上がったところにまた，生徒数を割るという状態にならないことをお考えいただきたいと思っております。是非これから先，10年先も見越した県全体，石巻地区とか古川とか松島あたりも見通して，6～8の大きな学校を作るということも良いのではないかと思います。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

はい，今回再編を進めるに当たり大きい規模の学校を設置することは正直難しい面もあるかと思えます。そういう意味では課題として御提示いただいたものと受け止めた上でそういったバランスなどにも配慮した検討を進めていきたいと思えます。

【高橋教育次長】

佐々木委員のおっしゃるとおり，第1回目の会議から申し上げておりますが生徒数が大崎地区だけでなく，石巻地区もそれ以外の地区も当然減っていくというところで，その中で生徒の皆さんが入りたいという学校をどう作っていくかということで議論をさせていただいておりますし，それぞれの地域では既に学校を統合して今まで，地域の中でやってきた訳です。石巻地区では学級減をやっていますけれども，そういう形である程度集約しながらやっていく方向にあるということは御理解いただいていると思えます。ただその中である程度の規模というものは必要だということは佐々木委員のおっしゃる点もございしますので，そこは今後しっかりと検討を進めていきたいと思えますけれども，状況が状況だということは，今まで御説明してきたとおりだと思っております。他に委員の方から何かありませんでしょうか。奥山委員，どうぞ。

【松山高等学校教育後援会 奥山会長】

4回目のまとめの中に11ページに「また，大崎地区だけでなく他地区から通学する生徒の利便性も考慮した位置に新設すべきだ」という意見も多かった。」とありますが，記憶を

たどっているのですが、そんなに沢山出たかなという感じがしています。それにこの会議は大崎地区における高校の在り方であったはずなのに、他地区の利便性を考えるということに広がっているのは、逆に大崎の生徒たちが一番通いやすいところ、通いたいところを作るべきなのではないかと思うのです。こういうのが入るから色々な人から最初から決まっているのではないかという声が出てしまうのですよ。これは白紙の状態で臨んでいただきたいと思います。これについては、三つの高校がそれぞれ単独で残りそうもないことは濃厚ですけれども、私としてはあまり賛成出来ないのですけれども、そうなった時には、最初からここですよと、ぼんとそこに学校ができるということでは、それではあまりにも何も知らない人たちが気の毒だと思います。

【高橋教育長】

私からお話させていただきたいと思います。11ページの「多かった」という表現についてはもう一度記録を確認して、必ずしも多くの方が発言されているということでなければ「御意見があった」ということで修正を検討させていただきたいと思います。担当に確認させますので、御了解をいただきたいと思います。それから他地区から通学する生徒の利便性というところは実情として松山、鹿島台商業、南郷には他地区から来ている生徒がいるわけです。そういったことで大崎地区の東部に作る高校でありますけれども、現状を踏まえて考えていくという趣旨で御意見をいただいたと考えております。そういったことでこの記述をまとめさせていただければと思います。それから仮に新しい学校を作るとした場合に何処がよいか、これは当然JRのことを考えれば鹿島台か松山ということになりますが、色々なアイデアがあるかと思います。ここは我々としては白紙でありますので、地元の行政と相談しながら仮に新しい場所に作るとなれば用地をどのくらいで取得できるかということが新しい学校の開校年次に繋がってくることとなりますので、あまり長い時間をかけるわけにはいかないところです。そういう訳でどこかに決めているということではありませんので、そこは誤解のないようお願いしたいと思います。松山で良いのではという御意見も頂戴しているところもありますが、まずは通学の利便性などを考えるべきであると思っておりますので、そこは御理解いただきたいと思います。

【高橋教育次長】

それでは他に御意見等ございませんか。鈴木委員、どうぞ。

【大崎市内小中学校長会 鈴木副会長】

中学校の方の立場としてお話をさせていただきますが、生徒が毎日通う学校、まだ子供ですので、利便性というのはとても大事な視点であると思っております。通勤の途中に長い距離、自転車を漕いでいる子供、歩いている子供を見たりすると、これは大変だなと思う事は多々ございます。利便性というところは大切な要素の一つとしていただけたらと思

っております。

それからもう一点ですが、他地区からということについてですが、私は仙台都市圏で校長をさせていただいたこともあるのですけれども、そこから大崎地区の高校へ少なからず子供たちが行っており、一生懸命勉強しています。この間も、確か鹿島台商業さんを訪問させていただいた時に他地区から来ている子供たちが鹿島台地区、また松山さんを訪問させていただいた時にも松山地区のことを一生懸命学習しています。ですからこのところ、他地区の子供たちのことも併せて考えていただくということは、是非考慮していただきたいと考えています。

それからこれは蛇足になるかもしれませんが、小学校の統合などの会議に参加させていただいたことがあります。やはり地域の皆さんの思いというものは深いものが当然ながらあります。小学校ですと長い学校は百何十年ということもありますので、その辺の思いを交換する場というものは小学校の統合の時に大切なのだと思ったことを、先ほどの議論の時に思い出しました。併せて案の出し方というものを、県のほうで専門家の方々が色々なパターン、色々な情報を持ってこのような形を考えているのですけれども、提案された時に、最初から地域の方々の意見を跳ね返すということは当然ないと思うのですね。まな板の上にこのような案がありますというお話をした後に色々な地域の方がたのお話を伺いながら、中身を深めていくというプロセスが、小学校の統合の時も見られていました。そういう流れが、今後8年くらいかけてこの事業を進めていくわけですので、そういうプロセスを大切にしながらですね、私は県の先生がたも同じ思いではないかと思っているところです。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

はい、貴重な御意見と思えます。通学の利便性に関して考慮した設置についても今後の検討課題とさせていただきますし、他地区からの生徒に関して言えば、現状で鹿島台商業高校の7割くらいの生徒が地区外から来ているということを踏まえれば、当然そういった視点も必要になるだろうと思っております。また、これから我々が検討を進めていくこの事業におきまして、その都度その状況について何らかの形でお示しするというのも課題であるという御指摘だったと思えますのでそれを踏まえて進めていきたいと思えます。

【高橋教育次長】

徳能委員，どうぞ。

【松山高等学校 徳能校長】

細かいことと、細かくないことと、二つお話をさせていただきますが、まずこれも前回言ったのですけれども、家政科は職業教育となり得ないと私は思っております。家政科というところで、これを職業教育と言われるとどうなのかなとまず思います。大崎地区の職業教育拠点校と言うのであればこれは全く拠点校にはなり得ないと私は思っております。

登米総合産業高校の様な、農業も工業も商業も一緒になったようなものであればそのようなことになるのかもしれませんが、工業高校は他に古川工業高校があり、農業高校も小牛田農林高校があり、そして涌谷では福祉をやるとなると、何を以て地域に必要な教育を実践する学校を作るのかと素朴に疑問に思います。職業教育拠点校という言い方にとっても引っかかりを持っていますし、そんな高校がこの三つの高校をベースにして出来るのだろうかと思えます。新たな学科を作ったとしても拠点となり得るのかということがとても疑問に思います。

もう一つは、県立高校の再編ということですし、私も県立の教員として長い間働いて参りましたが、やはり私立では出来ない教育をするというのが、公教育の目的であると思えます。経済性だとか費用対効果だとか、そんなことを考えた学校づくりはしないと思えますがそれだけは是非やらないでいただいて、経済的に恵まれないような生徒たちであっても教育の機会、自分のやりたいことを実現できる、そういった教育の機会を作っていただけのような学校にしていきたいと思えます。お金が無いからその学校は無理だとかその施設は無理だとかそういうようなことが無いような学校づくりをしていただきたいと思えます。

【高橋教育次長】

今の発言はご要望ということでよろしいでしょうか。他に委員の方から御意見等ございますでしょうか。佐々木委員どうぞ。

【南郷高等学校同窓会 佐々木会長】

前回も申し上げたのですが、徳能校長が言うように、新しい学校に新しい学科、そして子供たちにとって魅力ある学科を考えなくてはいけない、これは当然だと思えますし、松島の観光科、多賀城の災害科学科、大勢の子供たちが集まって実習に出たり就職先、良いところに行ったり、発揮している大きな特徴だと思っています。前回醸造科の話をしたのですが、おそらく醸造科という名称ではなくて、食品加工に力点を置いたものが出てくるのだと思うのですが、この地区には酒造関係、味噌醤油関係の会社もございます。それから大震災の影響で本来は沿岸部にある水産加工会社が田んぼの真ん中に工場を設けて、地元の人たちを採用してやっている。それから松島、女川、石巻辺りでは、かまぼこの産業もあります。そのことから醸造から更に広げた食品化学科というものを企業と連携したような学科が考えられればと思えますし、大学等との連携で職業高校から大学等への進学ができるのだというところで、何か辺りにないものと考えていただければ、と。学校を再編するときには当然お金がかかるのですから、思い切ってどんと予算をつけていただいて学校を作っていただければ良いなと考えております。この会議には各校の同窓会長さんが参加しているわけで、同窓会長というのは何十年もその学校を見てきているわけで、思い入れが非常に強いものですから、色々な意見を言いました。あとは話をする機会がないと思

いますので、是非その辺をお考えいただければと思います。

【高橋教育長】

ありがとうございます。地域の方々はもちろんですが、とりわけ学校の同窓生の皆さんは自分の学校がこういった形で姿を消すことに異議があるということについては、大変辛い思いであることと思います。そういった中で状況からしてどうしても再編せざるを得ないということで御了承をいただき、教育委員会としてそれに変わる魅力あるこれまでにない、入学したいと思われるようなそういう職業専門高校をしっかりと作っていかなくてはならないと思っております。今日頂戴した御意見はしっかりとレポートに記載させていただくことで、それを我々の次の具体的な検討の材料にさせていただきますので、地域の皆様にとっても良かったと思っただけのような高校を目指して今後具体的なアイデアを皆様から頂戴しながら進めてまいりたいと思います。

【高橋教育次長】

教育長から総括的なお話をいただきました。委員の皆様にはお忙しいところ大変長期間に渡る議論を尽くしていただきましてありがとうございました。最終的に我々、県教委の中で議論しながら新しい高校を、この地域にとって新しい高校かつここにいる子供たちが入りたい、選択したいと思うような学校を作っていきたいと思っております。5回に渡る議論、大変ありがとうございました。本日を以て一旦この検討会議の議論は終結をさせていただきますと思います。本当にありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお返しします。

6 閉 会

【司会】

以上をもちまして「第5回大崎地区における高校の在り方検討会議」を閉会いたします。どうもありがとうございました。